

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国語国文学特別研究						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	MJ6010
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文を書く						
授業の概要	日本語学・日本語教育に関係するテーマで卒業研究を書くことを目指します。まず、研究倫理を遵守したデータ採集など、研究者としての基本的な姿勢について学びます。次に、採集した用例やデータをどのような視点、枠組みで分析するのかなど、論文を書くため技法を身につけながら、論文を作成していきます。同時に、学会発表をすることも視野に入れ、学会発表やポスター発表をするための方法や技術を身につけます。そのため、積極的に研究会や学会にも参加することを期待します。						
到達目標	① 日本語・日本語教育の分野で高度な知識を身に付けることができる。【知識・理解】 ② テーマについて独自の研究を進め、社会に発信することができる。【態度・指向性】 ③ 研究倫理を深く理解し、データの取り扱い、個人情報の保護、文献や資料の引用など研究倫理に反することがないような意識をもつことができる。【研究倫理】						
授業計画	<前期> 第1回 修士論文とは 第2回 研究倫理について 第3回 研究倫理について2 第4回 各分野の研究テーマ1 第5回 各分野の研究テーマ2 第6回 データ収集の方法 第7回 データの分析 第8回 テーマ決定 第9回 各自のテーマについて個別指導1 第10回 各自のテーマについて個別指導2 第11回 各自のテーマについて個別指導3 第12回 各自のテーマについて個別指導4 第13回 中間発表の準備1 第14回 中間発表の準備2 第15回 前期のまとめ <後期> 第16回 学会発表の応募の仕方 第17回 要旨の書き方 第18回 発表の準備 第19回 レジюме、ポスター、スライドの作り方1 第20回 レジюме、ポスター、スライドの作り方2 第21回 各自のテーマについての発表と質疑応答6 第22回 各自のテーマについて個別指導1 第23回 各自のテーマについて個別指導2 第24回 各自のテーマについて個別指導3 第25回 各自のテーマについて個別指導4 第26回 各自のテーマについて個別指導5 第27回 各自のテーマについて個別指導6 第28回 修士卒業論文の完成1 第29回 修士卒業論文の完成2 第30回 論述口頭試問						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：事前に渡された論文あるいは資料を読んてくる。<学習時間2時間> 事後学習：授業内で出された課題について調べてくる。<学習時間2時間> 発表があたっている時は、わかりやすい資料を作成しプレゼンテーションを行う。 それ以外にも、自分の選んだ卒業論文のテーマについては、図書館などを利用して積極的に調べ、修士論文作成につなげていくこと。						
授業方法	講義と各自の発表や個人指導を中心に行う						
評価基準と評価方法	修士論文50% 【到達目標①と③に関する到達度の確認】 口頭試問30% 【到達目標①と③に関する到達度の確認】 最終発表20% 【到達目標①、②、③に関する到達度の確認】						
履修上の注意	・出席するだけでなく、積極的な授業参加望む。 ・欠席するときは必ず事前に連絡すること。						

履修上の注意	
教科書	適宜ハンドアウトを配布
参考書	

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本学特殊講義A						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	MJ508A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本的風景の研究						
授業の概要	風景の見え方は人それぞれである。生まれ育った環境に大いに影響されるもので、それを文化そのものだと評したとしても過言ではないであろう。歌枕もしくは俳枕を視座として、所謂、日本的風景について考察を加える。						
到達目標	高校までの学習と、大学以降で研究する学問との違いを理解した上で、より深く、日本的風景を楽しみ、説得力のある形で、その魅力を主体的に発信できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 神戸の風景 第3回 神戸中央部 第3回 兵庫県の風景 第4回 兵庫県北部 第5回 兵庫県南部 第6回 京都の風景 第7回 京都府北部 第8回 京都府南部 第9回 奈良の風景 第10回 奈良南部 第11回 奈良北部 第12回 大阪の風景 第13回 大阪中央部 第14回 神戸と大阪 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	地理的感覚を学ぶとともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	講義形式に適宜、演習的要素を加味する。各自が、あらかじめ用意してきたものを、授業時間中に提示し、それを、どのように位置づけすればよいかを受講生間で相互に確認する作業を適宜、実施する。						
評価基準と評価方法	「大学以降での研究のあり方を理解し、日本的風景の魅力を説得力のある形で発信できる」との到達目標への達成度を最終的に評価するためにレポート試験を実施する。授業に対する取組等の日常の勉学状況も、その過程を重視し評価することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況等70%、レポート試験30%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	授業中に指示する						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本学特殊講義B						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	MJ508B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の食文化						
授業の概要	日本とは何かを見つめ、様々な視点から検討することで、今、我々が生きている地域と文化のあるべき姿を問い直す。						
到達目標	高校までの学習と、大学以降で研究する学問との違いを理解した上で、より深く、日本文化を楽しみ、説得力のある形で、その魅力を主体的に発信できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日本文化のさまざま 第3回 郷土の料理 第4回 伝統食 第5回 季節の料理 第6回 肉食 第7回 こなもの 第8回 和菓子 第9回 洋菓子 第10回 そば食 第11回 うどん文化 第12回 名物料理 第13回 駅弁 第14回 食文化と筆記試験 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日本文化を楽しみつつ学ぶ心構えが大事で、授業中に提示したテキスト等を、精読できる学力を身につけるには、自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	講義形式に適宜、演習的要素を加味する。各自が、あらかじめ用意してきたものを、授業時間中に提示し、それを、どのように位置づければよいかを受講生間で相互に確認する作業を適宜、実施する。						
評価基準と評価方法	「大学以降での研究のあり方を理解し、日本的風景の魅力を説得力のある形で発信できる」との到達目標への達成度を最終的に評価するためにレポート試験を実施する。授業に対する取組等の日常の勉学状況も、その過程を重視し評価することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況等70%、レポート試験30%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	プリントを使用						
参考書	授業中に指示						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学演習IIA						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバー	MJ510A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語文法の復習と理解の深化をめざして（品詞、語順、活用、格関係、文法カテゴリー①）						
授業の概要	本授業では、日本語の文法を復習しつつ、さらに知識や理解を深めていくための演習・講義を行う。忘れていた事項や習っていない事項もあるかもしれないが、理解と知識の定着のために、丁寧に進めていく予定である。						
到達目標	(1)日本語の文法に関する基礎的な知識を身につけ、発展的な討議ができるようになる。（知識・理解） (2)授業内で学んだことをふまえ、日本語の文法に関する諸問題について自ら課題を見つけ、分析・考察することができるようになる。（汎用的技能）						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 学校文法について</li> <li>3. 品詞①（用言）</li> <li>4. 品詞②（体言）</li> <li>5. 品詞③（付属語）</li> <li>6. 語順①（形態的類型論）</li> <li>7. 語順②（文法カテゴリー）</li> <li>8. 語順③（数量詞）</li> <li>9. 活用①（活用の種類）</li> <li>10. 活用②（接辞）</li> <li>11. 述語と項①（意味役割）</li> <li>12. 述語と項②（格の階層性）</li> <li>13. ヴォイス①（受身、使役）</li> <li>14. ヴォイス②（その他）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回で、次回の内容に関してどの程度理解があるのかの確認も含めて導入をするので、指示（用語の確認や、論文を読んでくること等）に従って予習をしてもらうこと。（学習時間3時間） 授業時だけでは知識の定着は望めないため、必ず復習をすること。（学習時間1時間）						
授業方法	演習と講義： 内容によって、教員が講義形式で進めるものもあるが、基本的には演習形式で進める。 また、講義形式のときも、受講生とのディスカッションによって議論を深めていくことを前提とする。						
評価基準と評価方法	参加度（授業内での質疑内容を含む）50%（到達目標(1)に関する到達度の確認） レポート50%（到達目標(2)に関する到達度の確認）						
履修上の注意	授業に積極的に参加すること。						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学演習IIB						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバー	MJ510B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語文法の復習と理解の深化をめざして（文法カテゴリー②、複文、その他）						
授業の概要	本授業では、日本語の文法を復習しつつ、さらに知識や理解を深めていくための講義を行う。忘れていた事項や習っていない事項もあるかもしれないが、理解と知識の定着のために、丁寧に進めていく予定である。						
到達目標	(1)日本語の文法に関する基礎的な知識を身につけ、発展的な討議ができるようになる。（知識・理解） (2)授業内で学んだことをふまえ、日本語の文法に関する諸問題について自ら課題を見つけ、分析・考察することができるようになる。（汎用的技能）						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 授受表現</li> <li>3. テンス</li> <li>4. アスペクト①（テイル形）</li> <li>5. アスペクト②（方言のアスペクト）</li> <li>6. ムード①（対事的）</li> <li>7. ムード②（対人的）</li> <li>8. 連体修飾</li> <li>9. 副詞と連用修飾</li> <li>10. 複文</li> <li>11. 主語と主題</li> <li>12. 造語法</li> <li>13. 指示詞</li> <li>14. 語用論</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回で、次回の内容に関してどの程度理解があるのかの確認も含めて導入をするので、指示（用語の確認や、論文を読んできてくこと等）に従って予習をしていくこと。（学習時間3時間） 授業時だけでは知識の定着は望めないため、必ず復習をすること。（学習時間1時間）						
授業方法	演習と講義： 内容によって、教員が講義形式で進めるものもあるが、基本的には演習形式で進める。 また、講義形式のときも、受講生とのディスカッションによって議論を深めていくことを前提とする。						
評価基準と評価方法	参加度（授業内での質疑内容を含む）50%（到達目標(1)に関する到達度の確認） レポート50%（到達目標(2)に関する到達度の確認）						
履修上の注意	授業に積極的に参加すること。						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学特殊講義ⅠA						
担当教員	鈴木 喬					科目ナンバー	MJ506A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語における漢字の受容や仮名発達史などの問題を取り上げ、日本語の表記史について深く理解する。						
授業の概要	日本語には文字がなかった。中国語の文字である漢字との出会いが、日本語の表記史のはじまりでもある。言語にとって文字とは何か根本的なことから考え、平仮名への展開、文体の確立について考究していく。						
到達目標	(1) 文字の機能について理解できる【知識・理解】 (2) 日本語の表記に関する諸問題について理解できる。【知識・理解】 (3) 課題について、分析・考察することができる。【知識・理解、汎用的技能】						
授業計画	第1回：ガイダンス 授業の進め方、日本語の文字体系について 第2回：文字の機能 第3回：文字と字 第4回：漢字と「形・音・義」 第5回：日本語における漢字の受容―「訓読」 第6回：字体と字形 第7回：表記と書記 第8回：「訓字」（表意性と表語性） 第9回：表音機能 第10回：漢字から仮名へ ―価値ある忘却― 第11回：仮名文における連綿 第12回：「仮名遣い」1 上代特殊仮名遣 第13回：「仮名遣い」2 定家仮名遣いと契沖仮名遣い 第14回：変体漢文と和漢混淆文 第15回：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回において次回の授業に関連する用語や先行研究について紹介するので予習すること。（学習時間：2時間） 授業内容において復習をすること。また適宜課題を科す。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義を基本とする。 随時、テーマに関する内容についてディスカッション、課題作業を通じた発表行ってもらおう。						
評価基準と評価方法	授業の取り組み：40パーセント レポート：60パーセント 授業の取り組み：コメントシート、ディスカッションの内容。 レポート：授業で扱った内容の理解度の確認ならびに到達目標(1)(2)(3)の確認。 ※コメントシートについては次回の授業で展開する。 ※レポートについてはメールにて添削やコメントを付し、フィードバックする。						
履修上の注意	積極的に授業に取り組むこと。 授業回数 $\frac{3}{10}$ 以上欠席した場合は、原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	内田賢徳・乾善彦(2019)『万葉仮名から平仮名へ ―その連続・不連続』三省堂 尾山慎(2021)『上代日本語表記論の構想』花鳥社 矢田勉(2012)『国語文字・表記史の研究』汲古書院 など適宜、授業内で紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学特殊講義ⅡB						
担当教員	鈴木 喬					科目ナンバー	MJ506B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語表記史の問題について各文献を通じて理解を深める。また各文献の特徴について理解する。						
授業の概要	本授業では、日本語の表記・書記史における知識や理解を深めていくため漢字専用時代の資料を扱いながら講義を行う。適宜、作業や課題を取り組み内容理解を深める。						
到達目標	(1) 各作品について理解できる【知識・理解】 (2) 日本語の表記に関する諸問題について理解できる。【知識・理解】 (3) 課題について、分析・考察することができる。【知識・理解、汎用的技能】						
授業計画	第1回：ガイダンス 授業の進め方 文献学について 第2回：「作者」について 第3回：『万葉集』1 第4回：『万葉集』2 第5回：歌を文字で記すこと 第6回：『古事記』 第7回：『日本書紀』 第8回：宣命と祝詞 第9回：正倉院文書1 第10回：正倉院文書2 第11回：出土文字資料1 第12回：出土文字資料2 第13回：仮名資料 第14回：定家筆本 第15回：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回において次回の授業に関連する用語や先行研究について紹介するので予習すること。（学習時間：2時間） 授業内容において復習をすること。また適宜課題を科す。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義を基本とする。随時、テーマに関する内容についてディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業の取り組み：40パーセント レポート：60パーセント 授業の取り組み：コメントシート、ディスカッションの内容。 レポート：授業で扱った内容の理解度の確認ならびに到達目標(1)(2)(3)の確認。 ※コメントシートについては次回の授業で展開する。 ※レポートについてはメールにて添削やコメントを付し、フィードバックする。						
履修上の注意	積極的に授業に取り組むこと。 授業回数 $\frac{3}{10}$ 以上欠席した場合は、原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育特殊講義A						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	MJ511A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育および日本語学、関連境域における諸問題						
授業の概要	日本語教育の実践につなげ活用していくことを念頭に、日本語学及び日本語教育をめぐる様々な問題を考える。基本的な知識を確認・補充しつつ、自ら問題を発見し、主体的に考える力を養うことを重視したい。論文の輪読と受講生による研究発表を中心に進める。各自のディスカッションへの積極的な参加が求められる。実践を積むため学外の日本語教育機関に見学に行ったり、実習を行うことがある。						
到達目標	① 客観的に母語である「日本語」を観察することができる。【知識・理解】 ② 日本語について疑問に思ったことについて、それを研究し分析することができる。【汎用性技能】 ③ 日本語を母語としない者に日本語を教えることができる。【態度・指向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 日本語文の構造～基本文型～ 第3回 日本語文の構造～格助詞～ 第4回 格成分の主題化～コトとムード～ 第5回 格成分の主題化～コトを表す格助詞～ 第6回 格成分の主題化～ムードを表す「は」～ 第7回 格成分の主題化～主題化による格助詞の変化～ 第8回 格成分以外の主題化～4つの主題化パターン～ 第9回 二重格文 第10回 「は」の影響力 第11回 日本語教育の観点からの「は」 第12回 は～が～構文 第13回 自動詞と他動詞 第14回 自他の区別 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	輪読する論文を熟読し、内容を把握するとともに問題点をあげておく。（授業外学習時間2時間） 発表を担当するときは、配付資料を用意しておく。（授業外学習時間2時間）						
授業方法	講義＋演習（発表を含む）						
評価基準と評価方法	・授業への積極性、発表、レポートなどの総合評価とする。（場合によっては学外での実習での評価も含む） 発表：・授業参加・積極性：60%【到達目標①②③に関する達成度の確認】 課題あるいはレポート：40% 【到達目標①②③に関する達成度の確認】						
履修上の注意	欠席するときは必ず事前に連絡すること						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書	『考えて、解いて、学ぶ 日本語教育の文法』原沢伊都夫（2010）スリーエーネットワーク ISBN978-4-88319-542-8						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育特殊講義B						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	MJ511B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育および日本語学、関連境域における諸問題						
授業の概要	日本語教育の実践につなげ活用していくことを念頭に、日本語学及び日本語教育をめぐる様々な問題を考える。基本的な知識を確認・補充しつつ、自ら問題を発見し、主体的に考える力を養うことを重視したい。論文の輪読と受講生による研究発表を中心に進める。各自のディスカッションへの積極的な参加が求められる。実践を積むため学外の日本語教育機関に見学に行ったり、実習を行うことがある。						
到達目標	① 客観的に母語である「日本語」を観察することができる。【知識・理解】 ② 日本語について疑問に思ったことについて、それを研究し分析することができる。【汎用性技能】 ③ 日本語を母語としない者に日本語を教えることができる。【態度・指向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 ヴォイス 第3回 受身の形式と種類 第4回 動作主のマーカ 第5回 使役の形式と種類 第6回 その他のヴォイス 第7回 テンス 第8回 絶対テンスと相対テンス 第9回 動き動詞と状態動詞 第10回 テンス以外のタ形 第11回 アスペクト 第12回 金田一の動詞分類（瞬間性と継続性） 第13回 ムード〜対事的ムードと意志のムード〜 第14回 注意すべきムードの表現 第15回 複文の構造						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	輪読する論文を熟読し、内容を把握するとともに問題点をあげておく。（授業外学習時間2時間） 発表を担当するときは、配付資料を用意しておく。（授業外学習時間2時間）						
授業方法	講義＋演習（発表を含む）						
評価基準と評価方法	・授業への積極性、発表、レポートなどの総合評価とする。（場合によっては学外での実習での評価も含む） 発表・授業参加・積極性：60%【到達目標①②③に関する達成度の確認】 課題あるいはレポート：40% 【到達目標①②③に関する達成度の確認】						
履修上の注意	欠席するときは必ず事前に連絡すること						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書	『考えて、解いて、学ぶ 日本語教育の文法』原沢伊都夫（2010）スリーエーネットワーク ISBN978-4-88319-542-8						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学演習IA						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	MJ503A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	物語文学の生成と享受						
授業の概要	平安時代の物語のうち、『竹取物語』『伊勢物語』『源氏物語』を中心に、それらの物語がどのように生成され、どのように後世の文学や文化に享受されたかについて考察する。また、古写本の複製や影印本、版本を使って探究して行く。						
到達目標	(1) 物語文学の生成と享受について理解し、その特徴について説明できる。【知識・理解】 (2) 物語文学の古写本などの書誌を理解し、説明できる。【汎用的技能】 (3) 物語文学に対して興味・関心を持ち、その関心を表現できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 物語文学についての概説 第2回 伝奇物語の生成 第3回 『竹取物語』の生成 第4回 『竹取物語』の享受 第5回 歌物語の生成 第6回 『伊勢物語』の生成 第7回 『伊勢物語』の増補 第8回 『伊勢物語』の享受 第9回 日記文学と物語 第10回 『源氏物語』の生成 第11回 『源氏物語』の構成 第12回 『源氏物語』の享受 第13回 『源氏物語』の他ジャンルへの影響 第14回 そのほかの物語について 第15回 物語文学のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：物語文学や古写本の知識を持つよう関係図書を読む。（2時間） 授業後学習：授業で取り上げた物語文学の生成と享受について整理し、さらに探究する。（2時間）						
授業方法	講義と演習（プレゼンテーションおよびディスカッション）						
評価基準と評価方法	演習内容 70% 到達目標 (1) (2) に関する到達度の確認。 小テスト 20% 到達目標 (1) に関する到達度の確認。 演習の取り組み姿勢 10% 到達目標 (3) に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻・欠席をしないように努めること。						
教科書	適宜、プリントを配付する。						
参考書	必要に応じて提示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学演習IB						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	MJ503B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	和歌文学の生成と享受						
授業の概要	平安時代の歌集のうち、勅撰集の『古今和歌集』、私家集の『小町集』『業平集』を中心に、それらの歌集がどのように生成され、どのように後世の文学や文化に享受されたかについて考察する。また、それらについて、古写本の複製や影印本、版本を使って探究して行く。						
到達目標	(1) 和歌文学の生成と享受について理解し、その特徴について説明できる。【知識・理解】 (2) 和歌文学の古写本などの書誌を理解し、説明できる。【汎用的技能】 (3) 和歌文学に対して興味・関心を持ち、その関心を表現できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 和歌文学についての概説 第2回 屏風歌 第3回 歌合 第4回 勅撰和歌集 第5回 『古今和歌集』の生成 第6回 『古今和歌集』の享受 第7回 八代集 第8回 私家集 第9回 『小町集』の生成 第10回 『小町集』の享受 第11回 『業平集』の生成 第12回 『業平集』の享受 第13回 そのほかの歌集 第14回 平安時代の古写本のまとめ 第15回 和歌文学のまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：和歌文学や古写本の知識を持つよう関係図書を読む。(2時間) 授業後学習：授業で取り上げた和歌文学の生成と享受について整理し、さらに探究する。(2時間)						
授業方法	講義と演習(プレゼンテーションおよびディスカッション)						
評価基準と評価方法	演習内容 70% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 小テスト 20% 到達目標(1)に関する到達度の確認。 演習の取り組み姿勢 10% 到達目標(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻・欠席をしないように努めること。						
教科書	適宜、プリントを配付する。						
参考書	必要に応じて提示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学史特殊講義A						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	MJ505A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	上代・中古古典文学史の研究						
授業の概要	上代および中古の古典文学の史的展開について講義する。 文学作品の複製本や影印本を提示し、それぞれの作品の特性や実態に触れつつ、それらの文学が生み出された歴史的背景やそれぞれの生成のあり方について考察する。						
到達目標	(1)各ジャンルの文学の成立や享受の様相を理解し、説明できる。【知識・理解】 (2)古典文学や日本文化への興味・関心を持ち、その関心を表現できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 『古事記』『日本書紀』 第2回 『万葉集』 第3回 漢文学の隆盛と勅撰漢詩集 第4回 『古今和歌集』 第5回 屏風歌と歌合 第6回 私家集 第7回 物語文学①『竹取物語』 第8回 物語文学②『伊勢物語』 第9回 物語文学③『源氏物語』 第10回 歴史物語『栄花物語』『大鏡』 第11回 『土佐日記』 第12回 『蜻蛉日記』『更級日記』など女流日記 第13回 『枕草子』 第14回 『今昔物語集』 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回の授業で扱う文学史の流れについて調べて、学習する。（学習時間：2時間） 授業後学習：文学史の流れを整理し、それぞれの具体的な作品についても学習する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義を中心とするが、プレゼンテーションやディスカッションも取り入れる。						
評価基準と評価方法	期末試験 70% 到達目標 (1) (2) に関する到達度の確認。 小テスト 20% 到達目標 (1) に関する到達度の確認。 授業に対する取り組み姿勢 10% 到達目標 (2) に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻欠席は厳に慎むこと。						
教科書	『原色 新日本文学史[増補版]』（文英堂）978-4-578-27192-5						
参考書	適宜、提示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学史特殊講義B						
担当教員	田中 まき					科目ナンバー	MJ505B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	中世・近世古典文学史の研究						
授業の概要	中世および近世の古典文学の史的展開について講義する。 文学作品の複製本や影印本を提示し、それぞれの作品の特性や実態に触れつつ、それらの文学が生み出された歴史的背景やそれぞれの生成のあり方について考察する。						
到達目標	(1)各ジャンルの文学の成立や享受の様相を理解し、説明できる。【知識・理解】 (2)古典文学や日本文化への興味・関心を持ち、その関心を表現できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 『新古今和歌集』 第2回 中世和歌と歌学 第3回 連歌 第4回 『平家物語』 第5回 軍記物語 第6回 『宇治拾遺物語』など説話集 第7回 中世の日記・紀行文 第8回 『方丈記』 第9回 『徒然草』 第10回 能・狂言 第11回 浮世草子、読本など近世文学 第12回 俳諧と松尾芭蕉 第13回 浄瑠璃・歌舞伎 第14回 近世和歌と国学 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回の授業で扱う文学史の流れについて調べて、学習する。（学習時間：2時間） 授業後学習：文学史の流れを整理し、それぞれの具体的な作品についても学習する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義を中心とするが、プレゼンテーションやディスカッションも取り入れる。						
評価基準と評価方法	期末試験 70% 到達目標 (1) (2) に関する到達度の確認。 小テスト 20% 到達目標 (1) に関する到達度の確認。 授業に対する取り組み姿勢 10% 到達目標 (2) に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻欠席は厳に慎むこと。						
教科書	『原色 新日本文学史[増補版]』（文英堂）978-4-578-27192-5						
参考書	適宜、提示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学特殊講義IIA						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	MJ502A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	『小説神髓』の研究						
授業の概要	『小説神髓』を視座として小説のあるべき姿を問い、数多くある小説論の問題点、課題を検討する。逍遙および、その他の作家の諸作品、文学思潮、文学理論等についても、最新の情報、最新の研究成果を盛りこみ、大学院生諸君の知見を広める。						
到達目標	高校までの国語と、大学以降で研究する文学との違いを理解した上で、より深く、文学作品を楽しみ、説得力のある形で、その魅力を主体的に発信できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 小説を研究すること 第3回 坪内逍遙のこと 第4回 小説神髓緒言 第5回 小説総論 第6回 小説の主眼 第7回 小説の種類 第8回 小説の裨益 第9回 小説の法則 第10回 文体論 第11回 小説の脚色 第12回 時代小説 第13回 主人公 第14回 叙事法 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	地理的感覚を学ぶとともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	講義形式に適宜、演習の要素を加味する。各自が、あらかじめ用意してきたものを、授業時間中に提示し、それを、どのように位置づけすればよいかを受講生間で相互に確認する作業を適宜、実施する。						
評価基準と評価方法	「大学以降での研究のあり方を理解し、日本的風景の魅力を説得力のある形で発信できる」との到達目標への達成度を最終的に評価するためにレポート試験を実施する。授業に対する取組等の日常の勉学状況も、その過程を重視し評価することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況等70%、レポート試験30%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	『小説神髓』（岩波文庫） ISBN 9784003100417						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学特殊講義IIB						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	MJ502B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	夏目漱石『坊ちやん』の研究						
授業の概要	夏目漱石の諸作品、特に『坊ちやん』をメインテーマとし、各論文の問題点、課題を検討する。併せて、漱石および、その他の作家の諸作品、文学思潮、文学理論等についても、最新の情報、最新の研究成果を盛りこみ、大学院生諸君の知見を広める。						
到達目標	高校までの国語と、大学以降で研究する文学との違いを理解した上で、より深く、文学作品を楽しみ、説得力のある形で、その魅力を主体的に発信できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 漱石の時代 第3回 漱石の作風 第4回 『坊ちやん』の世界 第5回 『坊ちやん』の人物 第6回 『坊ちやん』のドラマ化 第7回 観光資源としての『坊ちやん』 第8回 メディアの『坊ちやん』 第9回 『坊ちやん』の翻訳 第10回 中央と地方 第11回 鉄道の文学 第12回 ミステリーの世界 第13回 新しい漱石像 第14回 今後の課題 第15回 総まとめガイダンス						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	数多くの文学作品を読み、関連する映画、ドラマを観るとともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	一部に演習を含む講義形式						
評価基準と評価方法	「大学以降での研究のあり方を理解し、文学作品の魅力の説得力のある形で主体的に発信できる」との到達目標への達成度を最終的に評価するためにレポート試験を実施する。授業に対する取組等の日常の勉学状況も、その過程を重視し評価することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況等70%、レポート試験30%とする。						
履修上の注意	好奇心を旺盛にして積極的な授業参加を心がけること						
教科書	授業中に指示						
参考書	授業中に指示						